

令和8年度第2回神奈川県公立高等学校協議会
議 事 録

1 日 時 令和8年7月30日(木)
14時00分～15時15分

2 場 所 神奈川県私学会館 4階 講堂

3 出席委員等 田沼 光明 竹内 博之 柏木 照正

永川 尚文 岡田 直哉

青木 恒夫 山本 大(代理) 原口 尚延

田中 賢 及川 博伸

師岡 健一 加賀美 博之 藤田 圭

(敬称略)

座長（田中委員）

「神奈川県公私立高等学校協議会」を開催します。私、私学振興課長の田中と申します。よろしくお願いします。本日はご多用の中、またお暑い中、お越しいただきありがとうございます。開催に当たりまして、「神奈川公私立高等学校協議会の設置及び運営に関する要綱」第4条第2項に基づき、座長の互選をお願いしたいと思います。従来、私立学校の所管課長である私学振興課長が座長を務めさせていただいております。今年度も同様に私学振興課長が座長を務めるということでご異議ありませんでしょうか。

全委員

異議なし。

座長（田中委員）

はい、それでは、私が座長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。なお、本協議会は、原則公開とされております。取材、傍聴者等につきましてはすでにご入室いただいておりますのでご承知おきください。また、記者の方から会議の冒頭、会議の撮影をしたいという申し出をいただいておりますが、そちらについてはよろしいでしょうか。

（確認後）

はい、ありがとうございます。では記者の方、頭撮りの方をよろしくお願いします。

（写真撮影後）

皆様ありがとうございました。それでは議事に入ります前に、今年度新たに委員になられた方をご紹介します。横浜市教育委員会事務局 学校教育部 高校教育課長 青木恒夫委員です。

青木委員

よろしくお願いします。

座長（田中委員）

川崎市教育委員会事務局 学校教育部 指導課長 小竹誠委員ですが、本日ご欠席で、代理で山本指導課担当課長にご出席いただいております。続きまして、横須賀市教育委員会事務局 学校教育部 教育指導課長 原口尚延委員です。

原口委員

よろしくお願いします。

座長（田中委員）

続きまして、神奈川県教育委員会教育局 指導部 高校教育課長 及川博伸委員です。

及川委員

よろしくお願いします。

座長（田中委員）

続いて、新たにオブザーバーになられた2名をご紹介します。神奈川県立高等学校長の代表、師岡健一オブザーバーです。

師岡オブザーバー

よろしくお願いします。

座長（田中委員）

続いて、神奈川県PTA協議会の代表 藤田圭オブザーバーです。

藤田委員

よろしくお願いします。

座長（田中委員）

その他の委員、オブザーバーの方々におかれましては、昨年度に引き続き、今年度もどうぞよろしくお願いします。なお、本日、神奈川県公立中学校長会の代表、小林祐樹オブザーバーはご欠席です。ご承知おきください。委員構成につきましては、資料1として委員名簿を添付していますので、後ほどご覧ください。

さて、この度、「かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会」から7月24日付けで要請文書が提出されています。要請文書の写しを机上に配布していますので、ご確認ください。文書を提出された方から口頭陳述の申し入れがありましたので、議事に入る前に陳述の機会を設けたいと思いますが、いかがでしょうか。

（確認後）

はい、ご異議がないので、それでは懇談会の代表の方、よろしくお願いします。会議の時間もありますので、恐れ入りますが3分以内で陳述をお願いいたします。

陳述者

かながわ定・通懇談会の金崎です。元県立高校の教員です。時間が短いので、請願書の3つの項目について簡単に説明します。（資料説明）

座長（田中委員）

ありがとうございました。それでは、次第に従い、議事を進めさせていただきます。まず、

「1 議題」の「令和9年度の「高等学校生徒入学定員計画」の策定について」です。例年、当協議会において、翌年度の公私の入学定員計画に係る協議を行い、公私間の合意を得た上で、その結果を「神奈川県公立高等学校設置者会議」に報告しています。協議に入る前に、私から昨年度までの定員協議の経過等について、簡単にご説明します。

定員計画について、平成22年度から3年間は、公立中学校卒業予定者の6割を全日制公立高校の入学定員とする「基本比率」により策定していましたが、平成25年度定員計画策定時に見直しを行いました。その際、比率による定員割り振り方式を採用した経緯や、これまでの実績、進学率の推移等を踏まえた上で、「公立の定員枠のみを決める方式」から、「公私がともに責任を果たす方式」へと見直す必要性について議論がなされました。その結果、平成25年度定員計画は、公私がこれまでの実績、施設や教員の規模等を踏まえて、全日制進学率の向上の視点のもとに、公私各々が実現を目指す定員目標を定め、その実現に向けて最大限努力することを記載して策定しました。これにより、全日制進学率は概ね9割を維持し、不本意入学者数も減少するなど一定の効果がみられたことから、平成26年度定員計画以降、同様の方式により策定してきました。昨年度までの経緯については、以上です。

続いて、令和8年度入学者選抜の結果を踏まえて、昨年度に策定した計画の検証を行いたいと思います。それでは、令和8年度入学者選抜結果について、事務局から資料の説明をお願いします。

事務局

高校教育課から資料3～資料3－4を説明

座長（田中委員）

ありがとうございました。それでは、協議に入ります。ただいま、令和8年度入学者選抜結果について事務局から説明がありましたが、昨年度に策定した定員計画を踏まえて、公立、私立それぞれに入学者選抜結果に対する評価をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。では、公立側をお願いします。

及川委員

はい、よろしくお願いいたします。令和8年度入学者選抜では、公立中学校卒業生の若干の減少見込みの中で、公立としては前年から50人増やしまして、定員目標を39,350人とさせていただきました。資料にありますけど、結果的には、公立中学校の卒業生は40人増えたという結果となっています。

令和8年度、県内公立高校の進学者は、先ほど説明があった資料3－2、公立の①県内公立高校とありますが、全日制入学者にあるように37,803人となっておりまして、前年度と比較して683人減少となりました。目標には、1,547人結果としてとることができず、公立としては厳しい結果、そういう事態があったと認識しております。以上でございます。

座長（田中委員）

ありがとうございます。私立側はいかがでしょうか。

田沼委員

県内私立高校には、県内公立中学卒業者のうち14,942人が入学することとなりました。目標値が14,950人でしたので、目標値には若干届かなかったということがございますけれども、私立といたしましては、大変いい数字ではないかなと思っております。県外からの入学者等を考慮しますと、14,950人を超えておりますので、学費無償化をはじめ、色々と影響があったのかもしれませんが、まずまずの数字だったと思っております。

座長（田中委員）

ありがとうございます。その他、選抜結果に対する評価、今、それぞれ公立側、私立側から評価、ご意見いただきましたけれども、いただいたご意見に対して、また意見等ございましたら、それぞれよろしくお願いします。いかがでしょうか。

竹内委員

私立の方は、合計の数字でいうと、目標はほぼ達成したのですが、個々の学校という視点で見ると、入学者が足りていない学校もいくつか存在しているので、まだまだ手放しでは喜べない状況であり、少子化に向けて、さらなる魅力をアピールしていかなければいけないかなと考えております。入学者が収容定員より多くなってしまった学校があったので、全体としてはプラスになっていますが、実際には、募集人員より入学者が少なかった学校があるということだけご承知おきください。

座長（田中 委員）

ありがとうございます。その他、この定員計画の計画、選抜結果に関する評価についてご意見ございましたらお願いします。

（意見なしを確認後）

よろしいでしょうか。そうしましたら、8年度の結果についての意見交換をいたしましたけれども、続きまして、定員計画の策定方式についてです。令和8年度定員計画は、「公私各々が実現を目指す定員目標を設定する方式」に変更してから14回目となる計画でした。この方式について、改めてご意見をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。まず公立側からご意見いただいてもよろしいでしょうか。

及川委員

全日制の進学率について、概ね9割を維持していたという点ではこの方式は一定の成果があったものと考えているところでございます。

座長（田中委員）

ありがとうございます。この方針につきましては、三市の方々からご意見いただければと思うのですが、いかがでしょうか。

青木委員

横浜市です。生徒の進路選択が多様化している中で、昨年度の実績を見てみますと、適正な策定をいただいていると考えますので、十分評価できると考えます。

座長（田中委員）

ありがとうございます。

川崎市 山本指導課担当課長

川崎市です。川崎市も横浜市と同じく、生徒の進学、進路の多様性、対応関係が入ってきておりますが、例年と比較しても適正な設定だったのではないかと考えております。

座長（田中委員）

ありがとうございます。

原口委員

横須賀市です。横須賀市も、横浜市、川崎市と同じように、やはり昨今、本当に子どもたち自身の進路選択が、非常に幅が広がっているというふうな状況の中で、私どもの高校は、横須賀市は1校しかございませんけれども、そうした形でいえば、本当に全日制につきましても、適正にあるというふうに評価しています。

座長（田中委員）

ありがとうございます。ただいま公立側からご意見いただきましたけれども、続きまして、私立側からご意見いただければと思います。

田沼委員

はい、私立といたしましても、この方式もよろしいのではないかと考えております。昔のように、パーセンテージで定員調整をやっておりますと、どんどん私立が縮小してしまうというような懸念もありますので、各学校の学則に定めたとおりの収容定員が確保できるこの方式がよろしいかと考えております。

座長（田中委員）

よろしいでしょうか。ありがとうございます。ただいま公私それぞれから、この策定方式についてご意見をいただきまして、昨年度までの策定方式につきましては、一定の成果があったとの評価をいただいたと捉えております。そうしましたら、令和9年度定員計画におきましても、引き続き、この策定方式を継続することについて、いかがでしょうか。

全委員

異議なし。

座長（田中委員）

はい、ありがとうございます。それでは、令和9年度定員計画の策定にあたりまして、昨年度までの策定方式を継続する方法であることを確認させていただきました。続きまして、令和9年度定員計画の内容についてです。資料4「令和9年度の『高等学校生徒入学定員計画』の策定について」に沿って協議させていただきたいと思います。資料の4－2以下は、資料4に記載した内容の参考となる資料ですので、まずは、資料4－2から資料4－10について、事務局から説明をお願いします。

事務局

高校教育課、私学振興課から、資料4－2～資料4－10を説明

座長（田中委員）

ありがとうございました。それでは協議に入りたいと思います。資料4をご覧ください。資料4は、令和8年度定員計画をベースに、「年度」の数字や「公立中学校卒業予定者数」などを、令和9年度用に修正するとともに、参考資料のデータを時点更新したものです。

この資料に基づき、令和9年度定員計画に記載する内容について確認をしていきます。まず、資料4の1ページをご覧ください。はじめに、冒頭の2段落目の「感染症」に関する部分についてです。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、令和3年度定員計画から、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた対応についての部分を追加したところですが、令和5年5月に感染症法上の位置付けが5類に移行したことを受け、感染症の発生状況によっては、入学者選抜の実施にあたり必要な検討を行う旨の記載をしております。令和9年度定員計画においても、引き続きこの内容を記載するということについて、ご意見ありましたらお願いいたします。

田沼委員

やはりコロナが収まったと言っても、またどんな感染症が来るかもわからないので、この感染症の発生状況によってはということは、ぜひ残しておいて欲しいと思います。

座長（田中委員）

ありがとうございます。公立はいかがでしょうか。

及川委員

そうですね、変更なしで良いのではないかと思います。

座長（田中委員）

ありがとうございます。それでは、この内容を記載することについては、それぞれ記載した方が良いとの意見をいただきました。

続きまして、同じ1ページの「1 基本的な考え方」についてです。この部分は、例年継続してきた「三つの視点」を引き続き尊重しつつ、平成30年度に、「（3）その他」の「私学の役割」として、（3）は2ページですね、「（3）その他」の私学の役割として、「学則で定められた収容定員を踏まえた安定的な学校運営に努め」という文言を追加したところでは。令和9年度定員計画の策定に向けて、この「1 基本的な考え方」について、ご意見ありましたらお願いいたします。

及川委員

特にありませんので、このままで良いのではないかと思います。

座長（田中委員）

はい、ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

田沼委員

私立側の方も、この「学則で定められた収容定員を踏まえた」という箇所が重要でございますので、よろしいかと思います。

座長（田中委員）

はい、ありがとうございます。それでは、この「1 基本的な考え」についても、この記載の通りといたしたいと思います。

続きまして、資料2ページの「2 定員計画の策定」についてです。この部分は、令和9年度の定員計画の方式や、実現を目指す定員目標設定の考え方などを記載しています。定員計画の策定方式については、先ほど昨年度の方式を継続する方向性を確認したところです。また、公私の募集計画について、例年10月までに公表することを記載しています。この部分についてご意見ありましたらお願いします。では、また公立側からご意見いただければ。

及川委員

令和9年度においても、この形でお願いできればと思います。

座長（田中委員）

ありがとうございます。私学側お願いいたします。

田沼委員

このとおりでお願いいたしたいと思います。

座長（田中委員）

ありがとうございます。では、この「2 定員計画の策定」についても、先ほども方式についても確認したところですが、この内容でご了解いただいたというところでございます。

続きまして、3ページの「3 今後の総合的な対応」についてです。この部分は、「1

基本的な考え方」に 記載した各項目の具体化を目標として、

- (1) 経済的な課題を抱えた生徒の受け入れ対策
- (2) 不登校生徒等の受け入れ対策
- (3) クリエイティブスクール
- (4) 定時制等の受け入れ対策
- (5) その他の対策

をそれぞれ記載しています。このことにつきまして、ご意見を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。また、公立側からご意見をいただいてもよろしいでしょうか。

及川委員

特に変更する必要はないと思いますので、この形でいければと思います。

座長（田中委員）

ありがとうございます。この内容については、そうですね、三市の方々からもご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

青木委員

横浜市です。高校で学ぶ生徒が多様化している中で、ここで挙げられた項目について、引き続き考えられていくべきものだと考えております。横浜市でも、こちらの項目についてしっかりと対策していきたいと考えております。よろしくお願いします。

川崎市 山本指導課担当課長

川崎市でございます。川崎市も特に問題があると思っておりません。このままでお願いしたいと思います。

原口委員

横須賀市です。先ほども申し上げましたけれども、本当に子どもたち自身の進路選択の多様化というのが、本当に現場ですごく感じます。私もちょっと現場にいましたが、非常に感じる場所がございました。その中で、本当にこのような形で様々な進路選択ができるような環境を整えていただけるということが非常に大切だなと思っております。ぜひどうぞよろしくお願いします。

座長（田中委員）

ありがとうございます。では、私立側はいかがでしょう。

田沼委員

これらのことを踏まえながらということで、よろしくお願いしますと思います。

竹内委員

だいぶ充実した学費支援について、もっと中学校の先生方に分かってもらうことが必要

と思っています。我々は一生懸命説明していますが、来校された保護者の方や、私学高校展等のイベントで相談ブースに来た方に説明したときに、「あ、そうだったんですか」とおっしゃることがまだまだあるようなので、この辺もぜひ徹底をしたいと思っています。それから、私立としても、不登校生徒をなるべく受け入れる形はとりたいと思います。なんでもかんでも、広域通信ではなくて、もっと私立も、公立も不登校生徒の受け入れという観点からも、もう少し魅力のあるものにしないといけないとは思っております。

座長（田中委員）

ありがとうございます。その他よろしいでしょうか。

（確認後）

はい。そういたしましたら、この「3 今後の総合的な内容」につきましても、こうした内容に引き続き、取り組んでいくということで理解いたしました。

続きまして、資料4ページをご覧ください。「4 昼間の時間帯で学ぶ進学率」、昼間進学率の活用の確認をいたします。この部分には、昨今の中学生の進路選択の多様化を踏まえて、「全日制進学率」と併せて「昼間の時間帯で学ぶ進学率」という指標を活用することを例年記載しています。この部分につきまして、ご意見がありましたらお願いいたします。そうしましたら、また公立側からご意見をいただければと思います。

及川委員

このままの記載でよろしいのではないかと思います。

座長（田中委員）

ありがとうございます。私立側はいかがでしょう。

田沼委員

このままで結構だと思います。実質、昼間に通っている生徒はどれくらいかという大変重要な話になると思います。

座長（田中委員）

はい、ありがとうございます。そういたしましたら、この4番の部分につきましても中の記載としたいと思います。続きまして、資料5ページをご覧ください。「5 令和9年度公立高等学校生徒全日制入学定員の目標設定の考え方及び計画」についてです。ここはまとめの部分となりまして、公立私立の具体的な入学定員の目標人数を記載するところとなっています。資料には、公立私立とも人数を記載する部分、網掛け部分がありますが、空欄にしております。この部分に 令和9年度の目標人数を今後入れていくこととなります。これにつきましては、本日、令和8年度入学者選抜の結果を確認したところですので、公立、私立双方が持ち帰って、しっかりと検討していただき、次回の協議会において協議をさせていただきたいと考えますが、よろしいでしょうか。

（確認後）

はい、ありがとうございます。

それでは、本日の協議の結果について整理いたします。公私それぞれのお立場からご意見いただきましたが、令和9年度定員計画につきましては、昨年度に続き、「公私が自らの責任において実現を目指す定員目標を設定する方式」により策定することで、公私の考えが一致しているということが確認できました。そこで、公私それぞれが全日制進学率の向上を推進するために目指す令和9年度入学者の定員目標をご検討いただいた上で、もう一度お集まりいただくようお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(確認後)

はい、ありがとうございます。それでは、大変恐縮ですが、9月の設置者会議への報告を目指しまして、次回の協議会については、8月下旬に開催する方向で調整していきたいと思っています。よろしくお願いします。次第の「1 議題」についての協議は以上となりますが、その他、最後に何かご意見ある方はお願いいたします。

田沼委員

今年の協議がそういう形で、公立の方で適正な人数にということを考えるのですが、資料4-2を見ますと、非常に今、少子化が進んでおりまして、例えば令和9年と令和19年の公立中学卒業者数を比べると、およそマイナス15,000人という数字になります。これはあと10年間の間にこういう状況が来るということでございますので、とにかく公立が定員割れしないように、それから私立が倒産しないようにという形で定員計画を協議するようにしないと、なかなか大変だという印象を持っております。

竹内委員

私からも一言申し上げます。次回の公私協では、公私それぞれの定員目標を出すわけですが、私立として何名という目標を設定したら、公立と合わせて、全体の全日制進学率が90%に達するのかなという、少し難しい予想を立てなくてはならないという思いを持っていることは事実でございます。うまく数字が合えばいいとは思っていますが、公立の方も目標設定が難しいのではないかと思いますので、今年はそれぞれが持ち寄った数字では折り合いがつかず、当日の議論が白熱することになるかもしれないということも考えています。

座長（田中委員）

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

(確認後)

それでは、この「1 議題」の「高等学校生徒入学定員計画」の策定については、ここまですでにしたいと思っています。次第に、「2 その他」とありますが、この定員計画以外でも結構ですので、その他として、皆様から何かございましたらご発言をお願いいたします。

(確認後)

よろしいでしょうか。そういたしましたら、本日の議事は、全て終了いたしました。

委員の皆様、オブザーバーの皆様、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。これをもちまして、「令和8年度第2回神奈川県公立高等学校協議会」を終了させていただきます。